

ばにあるミステック博物館を訪れて、古い時計のコレクションを見学した。このミステック行きの日には上々の天気、ニューイングランドの12月初旬にしてはポカポカと暖い小春日和であった。天文台手配の運転手付ワゴンに乗って(天文台にはワゴンしかなかった)。途中の何とかという所で、運転氏推薦の何とかという著名なシーフードレストランでオイスター・カクテルなんかも含まれたリッチな昼食をとった。廣瀬先生は、そして筆者も運転手氏も大気嫌であった。

1976年の暮にある出版社の企画で廣瀬先生と対談する機会があった。星の博物誌というテーマであったが、要するに何でも話題になってしまうような雰囲気、先生もまことに楽しんでであった。そしてこれが先生とお目にかかった最後である。今、その収録記事を読み返すと、私の心の中には、5年前の先生の生き活きとしたお顔の表情や、「そりゃおかしいよ堀くん」なんていわれた時の手振りまでよみがえってくる。

故廣瀬秀雄氏略歴

- | | | | |
|--------------|-------------------------|----------|---|
| 明治 42. 8. 14 | 兵庫県に生まれる。 | | 授 |
| 昭和 7. | 東京帝国大学理学部天文学科卒業、大学院に進む。 | 45. | 埼玉大学教授、この間同大学評議員を歴任 |
| 12. | 東京天文台技手 | 50. | 埼玉大学名誉教授 |
| 16. | 東京帝国大学助手 | 50.—55. | 専修大学教授 |
| 17. | 東京天文台技師 | 56.10.27 | 死去 |
| 24. | 理学博士、東京大学東京天文台助教授 | | なお、測地学審議会委員、学術審議会専門委員、理科教育審議会委員などのほか、日本学術会議会員、天文学研究連絡委員会幹事、日食研究連絡委員会委員、測地学会委員長、国立科学博物館評議員などを歴任した。また、国際的には国際天文学連合の小惑星・彗星委員会組織委員、天文電報委員会委員を務めた。 |
| 26. | 東京大学東京天文台教授 | | |
| 38.—43. | 東京大学東京天文台長、東京大学評議員 | | |
| 40.—42. | 日本天文学会理事長 | | |
| 45. | 東京大学を停年退職、東京大学名誉教授 | | |

故廣瀬秀雄博士主要著書・論文目録

著書 シュミットカメラ：河出書房 1947/天体軌道論：日本天文研究会 1949/宇宙：講談社 1965/宇宙を見る：旺文社 1965/コペルニクス：牧書店 1965/おはなし宇宙めぐり：実業之日本社 1968/日本人の天文観：日本放送出版協会 1972/年・月・日の天文学：中央公論社 1973/天動説から地動説へ：国土社 1979/望遠鏡：中央公論社 1973/暦、日本史百科：近藤書店 1978/太陽・月・星と日本人：雄山閣 1979/初等天文学演習：恒星社 1979/天文学史の試み：誠文堂新光社 1981。

編・共著 [] は共著者名などを示す。太陽と月〔畑中〕：三省堂 1951/標準星図〔中野〕：地人書館 1954/地球と月〔新天文学講座〕：恒星社 1957/月を歩く〔古在〕：法政大学出版局 1958/全天恒星図〔中野〕：誠文堂新光社 1959/彗星とその観測〔関〕：恒星社 1963/天文気象〔カラー図鑑〕：小学館 1968/彗星を追う〔古川・香西〕：地人書館 1971/近世科学思想下〔中山・大塚〕：岩波書店 1971/洋学下〔中山・小川〕：岩波書店 1972/宇宙のひみつ：学研 1972/コペルニクスと現代〔湯川他〕：時事通信社 1973/暦：ダイヤモンド社 1974/関孝和全集〔平山〕：大阪教育図書 1974/宇宙地球〔万

有百科大事典〕：小学館 1975/レンズマジック：日本ブリタニカ 1980/天文暦学諸家書簡集〔上原・小野〕：講談社 1981。

分担執筆 日食の観測法とその整理〔日食〕：恒星社 1948/日食と掩蔽の観測〔天体観測入門〕：恒星社 1951/彗星及び小惑星、天体写真儀〔天文学の概観〕：日本学術振興会 1951/彗星〔太陽系〕：恒星社 1957/掩蔽とその観測〔地球と月〕：恒星社 1957/望遠鏡と天体写真〔天文台と観測機械〕：恒星社 1958/小惑星彗星の軌道決定、流星の軌道決定〔天体の軌道計算〕：恒星社 1958/人工衛星の見え方、精密写真観測〔人工衛星〕：角川書店 1958/大望遠鏡による天体写真〔現代の天文学〕：恒星社 1958/太陽系の力学〔宇宙の探究〕：岩波書店 1960/188 cm 望遠鏡による天体写真〔楠木・宮地還暦記念論文集〕：恒星社 1963/時の沿革、時の基準〔時の科学〕：コロナ社 1966/彗星天文学〔彗星その天文学〕：誠文堂新光社 1974/伊能忠敬の全国測量と経度問題〔伊能忠敬の科学的業績〕：古今書院 1974。

主要研究論文〔小惑星彗星流星など〕小惑星の軌道の調査報告(第二～十報)：台報 1~3 1933~35/ダニエ

ル周期彗星の回帰に就いて：台報 5 63 1937/Photographische Aufnahmen am Brashear Astrograph 1~36: T.A.B. 264~II 148 1938~1961/Photographic Observations of Meteors: Proc. Jap. AC. 26 1950/The Photographic Quadrantid Meteors: T.A.B. II 77 1955/Spectral Studies of Meteors at the Tokyo Astrn. Obs: Proc. IAU Symp. 33 1967.

〔日月食掩蔽など〕 The Transit of Mercury 1940 Nov. 11~12: T.A.B. 553 1941/Sternbedeckungen beobachtet in Japan: T.A.B. 689 1943/The Effect of the Terrestrial Locality on the Occultation of the Stars by the Moon: Tokyo Reprint 83 1948/Preliminary Consideration on the Locality Effect of Equinox Correction I, II: Tokyo Reprint 84, 85 1948/天体の位置観測に現われる局地性: 科学 19 12 1949/Observations of the Annular Eclipse of May 8~9, 1948: Annals T.A.O. II 3, 1, 1950/On the Prediction of the Equal-Limb-Line for an Occultation: Annals T.A.O. II 3, 4, 1953/掩蔽測地法の研究 I・II: 測地学会誌 2 3, 5 3 1956, 59/Note on Simultaneous Observations of Artificial Satellite for Geodetic Purpose: Space Research II 1961/日本の経緯度原点: 測地学会誌/Research on the Geodetic Use of Artificial Satellite: 測地学会誌 8 3 1962/A Simple Method of the Triangulation with the Use of Artificial Satellites: The Use of Artificial Satel-

lite for Geodesy 1963.

〔天体写真など〕 写野の広い反射写真儀: 天文月報 32 1939/星野写真における極限等級: 台報 8 1940/暗黒星雲 I~IV: 天文月報 33 1940/天文学文献抄 8 1940/アブラナート反射写真機 I~VI: 天文月報 35 1942~43/シュミットカメラとその発達: 科学 24 1954/科学研究活動の評価法についての一考察: 埼玉大紀要 11 1975.

〔天文学史など〕 江戸時代の天文家と地動説: 蘭学研報告 60 1960/宝暦の改暦について: 蘭学研報告 127 1963/授時暦と貞享暦の冬至について: 文部省科研報告 2 1964/オツボルツェル食典の歴史問題の適用について: 文部省科研報告5 1964/宝暦改暦後の編暦問題の推移と寛政改暦をめぐる問題集: 蘭学研報告 157 1964/江戸時代の天文測地用機器について: ビブリア 35 1965/授時暦の研究: 台報 14 1969/関孝和と天文学: 数学史研究 56 1973/平安朝の時刻制度: 日本歴史 340 1976/天球儀覚え書: 五島プラネタリウム学芸報 1978/Acceptance of Western Cultures in Japan: The Center for East Asian Cultural Studies 1970.

以上の他、論文、論説、随筆等、枚挙の余地がありません。紙数制限のため、見難い表になったことをお詫び致します。調査担当: 内田正男, 富田弘一郎。

わが国唯一の天体観測雑誌

天文ガイド

定価380円(千70円) '82-4月号・3月5日発売!

4月号のおもな内容

- ★惑星直列で、おとめ座周辺に集まっていた明るい惑星が、宵の東の空に見え始めました。火星・土星・木星と並んで順に昇ってきます。この火星が地球に接近してきています。今月の観測ガイドは火星の観測です。
- ★木星は双眼鏡でも見ることのできる衛星を四つ持っていますが、この衛星はお互いにうしろに隠れたり、影に入ったりします。この現象の時刻を正確に測定してみましょう。ガイドは東京天文台の中村士さんです。
- ★ジャワ日食ガイド第2回目は、藤塚晴夫さんの報告。
- ★最近のカメラレンズは、どれが天体写真に向いているか、メーカー6社のレンズをテスト。……………ほか

★星のない夜に楽しむ本★

天文通のあなたも、興味を持って問もないあなたも、奇問・珍問・難問664に挑戦。

クイズ

星座

天文ガイド
斉田博編

定価900円